

和歌山縣報

第一千十號

明治四十三年九月十八日

○縣令

○和歌山縣令第三十七號

本縣勸業會獎勵規則左ノ通相定ム

明治三十九年^{十二}和歌山縣告示第二百五十六號勸業會獎勵規程ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年九月十八日

和歌山縣知事 川上親晴

勸業會獎勵規則

第一條 本則ニ於テ勸業會ト稱スルハ產業ニ關スル共進會、品評會、競技會ノ類ニシテ左ノ各號ノ

一、該當スルモノヲ謂フ

一、一郡市以上ヲ地區トシ本縣物產ニ關シ施設スルモノ

二、一町村又ハ數町村ヲ地區トシ特有物產又ハ重要物產ニ關シ施設スルモノ

第二條 前條ノ勸業會ヲ開設スルトキハ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 勸業會ノ主催者ハ開會期日六十日前ニ左ノ事項ヲ具シ郡市長ヲ經由シテ開會ノ認可ヲ知

事ニ申請スヘシ

一、規則

二、經費豫算

三、豫定出品人員及点数

前項ノ規則中ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一、名稱、開會ノ場所、出品區域及主催者

二、開會及閉會ノ年月日

三、出品ノ種類及數量

四、審査ニ關スル事項

五、事務處理ニ關スル事項

第四條 勸業會ノ審査長及審査員ハ主催者ニ於テ選任シ知事ノ認可ヲ及クヘシ但シ第一條第一號

ニ該當スル勸業會ノ審査長ハ主催者ノ申請ニ依リ知事之ヲ命ス第五條第二項但書ノ場合亦同シ

第五條 第一條第一號ニ該當スル勸業會ニ在テハ優等ト認ムル出品者ニ對シ知事褒賞ヲ授與ス

第一條第二號ニ該當スル勸業會ニ在テハ主催者若ハ郡市長ニ於テ褒賞ヲ授與スルモノトス但シ

特ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ知事之ヲ授與スルコトアルヘシ

褒賞ニ關スル費用ハ主催者ノ負擔トス

第六條 知事ニ於テ授與スル褒賞ハ審査ノ成績優等ナルモノヲ四等ニ分チ一等乃至三等ニ賞狀ヲ

四等ニ褒狀ヲ授與ス但シ賞狀ヲ受ケタル者ニ對シテハ主催者ニ於テ賞品又ハ賞牌ヲ授與スルコ

トヲ得

主催者又ハ郡市長ニ於テ授與スル褒賞ノ等級ハ前項ニ準シ適宜之ヲ定ムヘシ

第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル勸業會ノ主催者ハ閉會二十日以内ニ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘ

シ

一、出品人員（出品種類ヲ區別スヘシ）

二、出品点数（同前）

三、受賞人員（各出品種類毎ニ褒賞ノ等級種類ヲ區別シテ其ノ受賞人員ヲ記載スヘシ）

四、來觀人員

五、會費總額

六、會費區別（負担金、補助金、通券收入金額、寄附金）
（等各其ノ金額ヲ區別シ記載スヘシ）

七、審査長ノ官氏名及審査報告

第八條 勸業會ハ其ノ規則ノ定ムル所ニ從ヒ出品物ニ關係アル功勞者ニ對シ功勞賞ヲ授與シ又ハ追贈スルコトヲ得

第九條 他府縣又ハ外國ニ於テ開設スル博覽會共進會若ハ商品陳列所等ニ對シ本縣物產ヲ出品セシムル必要アリト認メタルトキハ其ノ出品物ノ荷造運送費ノ全部若ハ幾部ヲ出品者ニ補助ス前項荷造運送費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ其ノ費用豫算書ヲ添ヘ豫メ知事ニ申請スヘシ

○訓令

○和歌山縣訓令第三十九號

郡 警 署
役 察 分
所 署 署

「トラホーム」豫防規程左ノ通相定ム

明治四十三年九月十八日

和歌山縣知事 川上 親 晴

市 役 所
町 村 役 場
公 立 學 校
公 立 幼 稚 園

「トラホーム」豫防規程

第一章 學校、幼稚園ニ於ケル豫防方法

第一條 學校長、幼稚園長ハ毎年四月及十月校醫園醫若クハ嘱託醫ヲシテ全部ノ生徒、兒童、園兒
ニ對スル「トラホーム」ノ有無ヲ檢診セシムヘシ

第二條 生徒、兒童、園兒中急性分泌性眼病患者發生シタルトキハ隨時檢診セシム尙ホ多數發生セ

ムトスル虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス全部ノ生徒、兒童、園兒ニ對シ臨時檢診セシムヘシ

第三條 學校長、幼稚園長ハ生徒、兒童、園兒ノ檢診上發見シタル患者ハ第一號様式ノ名簿ニ登載

シ同時ニ第二號様式ニ依リ翌月十五日迄ニ市町村長ニ報告シ市町村長ハ其ノ月末日迄ニ之ヲ取

纏メ知事ニ進達スヘシ但シ縣立學校ニ在リテハ直接郡立學校ニ在リテハ郡長ヲ經テ知事ニ報告

スヘシ

第四條 「トラホーム」ニ罹リタル生徒、兒童、園兒ノ治療ハ校醫、園醫若クハ嘱託醫ヲシテ放課後
校內、園內或ハ其ノ他便宜ノ場所ニ於テ施行セシムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ自宅治療ヲ
爲サシムルコトヲ得

第五條 「トテホー」治療ニ要スル費用ノ全部又ハ一部ハ經費ノ許ス限リ可成校費團費又ハ市町村費ヲ以テ支辨スヘシ但シ自宅治療ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第四條ニ依リ學校、幼稚園ニ於テ治療スル者ニ對シテハ出席簿中ニ日々治療ノ受否ヲ記入シ自宅治療ヲナサシメタル者ニ對シテハ第三號様式ノ治療票ヲ交付シ校長、園長ニ於テ其ノ成績ヲ監視シ治療シタル者ハ更ニ校醫、園醫若クハ嘱託醫ヲシテ檢診セシムヘシ

第七條 自宅治療患者ニシテ治療シタルトキ又ハ治療票ノ治療醫捺印欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ治療票ヲ返戻セシメ之ヲ保存スヘシ

治療票ノ治療醫捺印欄ニ餘白ナキニ至リタルトキ若ハ紛失毀損シタルトキハ速ニ再交付ヲ受ケシムヘシ

第八條 學校長、幼稚園長ハ分泌物夥シク傳染ノ危險甚シト認メタル者ニ對シテハ其ノ出席ヲ停止シ校費、團費或ハ市町村費或ハ自費ヲ以テ治療セシムヘシ

第九條 學校長、幼稚園長ハ第四號様式ニ依リ四月ヨリ九月末日迄及十月ヨリ翌年三月末日迄ノ治療成績表ヲ調製シ各翌月十五日迄ニ市町村長ニ報告シ市町村長ハ其ノ月末日迄ニ之ヲ取纏メ知事ニ進達スヘシ但シ縣立學校ニ在テハ直接、郡立學校ニ在テハ郡長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

第十條 職員小使等ニ對シテハ第一條乃至第三條ノ規程ヲ準用ス

第十一條 患者ト健眼者トヲ識別シ易カラシムル爲メ健眼者ニハ一定ノ徽章ヲ附セシムヘシ

第十二條 教室、保育室ハ休息時毎ニ窓ヲ開キ新鮮ナル空氣ヲ流通セシメ塵埃ノ飛散ヲ防止シ授業、保育ヲ終リタル後ハ濕拭掃除ヲ勵行スヘシ

第十三條 患者(トラホーム患者ト疑病症患者トノ間ニ於テモ可成之ヲ區別スベシ以下做之)ノ所持品ト健眼者ノ所持品トハ其ノ置所ヲ區別ス

第十四條

机并ニ椅子ハ患者ト健眼者トニ因リ之ヲ區別シ時々二十倍乃至五十倍ノ石炭酸水

第十五條

運動場ハ時々撒水シテ塵埃ノ飛散ヲ防止シ尙ホ遊戯ノ際ハ患者ト健眼者トヲ區別スヘシ

第十六條

生徒、兒童、園兒ニハ各自手拭又ハ手巾ヲ持タシメ毎日之ヲ洗濯セシムヘシ

第十七條

生徒、兒童、園兒ハ身躰殊ニ顔面、手指ヲ清潔ニシ爪ハ時々剪除シ汚垢ヲ留メサラシムヘシ

第十八條

患者ト健眼者トハ器械、器具ヲ區別シ物品ノ貸借ヲ爲サシムヘカラス

第十九條

患者ニハ手拭ノ外眼拭ヲ持タシメ分泌物、涙液ヲ手指衣服ニテ拭ハサラシムヘシ

第二十條

生徒、兒童、園兒ノ常ニ手ヲ觸ル、個所ハ日々石炭酸水或ハ昇汞水ニテ拭フヘシ

第二十一條

手洗水ハ患者ト健眼者トニ因リ之ヲ區別シ可成流出裝置トナスヘシ

第二十二條

生徒、兒童ヲシテ教室ノ掃除ヲナサシムル場合ハ健眼者ト患者トヲ混同セシメス且ツ施行後ハ手指ヲ洗淨セシムヘシ

第二十三條

寄宿舎ニ於テハ次ノ各項ニ準據スヘシ

一、健眼者ト患者トハ室ヲ區別スルコト

二、寢具ハ健眼者ト患者トニ因リ之ヲ區別シ置所ヲ一定シ時々日光ニ曝晒スルコト

三、患者ノ手拭、洗面器ハ各別トシ置所ヲ一定シ健眼者トハ嚴ニ之ヲ區別スルコト

四、入浴ハ健眼者、疑似症、患者トヲホームノ順ニ行フヘキコト

第廿四條 學校長ハ時々校醫及ヒ教員ヲシテ講話其ノ他ノ方法ヲ以テ生徒、兒童ニ對シ「トラホーム」豫防治療上ノ注意ヲ與ヘシムヘシ

第廿五條 學校長、幼稚園長ハ豫防治療ニ關シ家庭ト聯絡ヲ計リ保護者ニ對シ時々懇話會ヲ開キ或ハ注意書ヲ與フル等豫防治療上適當ノ措置ヲナスヘシ

第二章 次年徵兵適齡者並ニ壯丁ニ對スル豫防方法

第廿六條 市町村長ハ市町村醫若ハ嘱託醫ヲシテ次年ニ徵兵適齡トナル可キ者ニ對シ毎年四月徵兵検査合格者ニ對シ八月、十月ニ「トラホーム」ノ有無ヲ検査セシムヘシ其ノ定期検査ニ漏レタル者ハ隨時検査ヲ受ケシムヘシ

警察官吏ハ豫防検査ニ關シ市町村吏員ト協力シテ相當措置ヲナスヘシ

第廿七條 市町村長ハ検査ノ結果「トラホーム」患者ヲ發見シタルトキハ第五號様式ノ患者名簿ニ記入シ速ニ同様式ニ依リ警察官署ニ通報シ第六號様式ニ依リ翌月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第廿八條 次年ニ徵兵適齡トナル可キ者及ヒ徵兵検査合格者ノ「トラホーム」ニ罹レル者ニ對シ市町村長ハ經費ノ許ス限り可成市町村費ヲ以テ市町村醫若クハ嘱託醫ノ治療ヲ受ケシムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ自費治療ヲナサシムルコトヲ得

第廿九條 市町村費ヲ以テ治療スル者及ヒ自費治療ヲ爲ルシムル者ニ對シテハ第七號様式ノ治療票ヲ交付シ警察官吏、市町村吏員ハ時々治療票ヲ檢閲シ其ノ都度相當欄ニ月日ヲ記入捺印シ治療ヲ忽諾ニ附スル者ナキヲ期スヘシ但シ治療票ニ就テハ本則第七條第八條ヲ準用ス

市町村ニ於テ治療簿ヲ作り時々治療票ヲ検査シ治療ノ受否ヲ記入スヘシ

第三十條 第五號様式ノ名簿ハ警察官署ニ於テモ亦之ヲ調製シ置キ異動アル毎ニ訂正スヘシ

第卅一條 「トラホーム」患者他府縣又ハ他部内ニ移住セントスルトキハ戸主又ハ本人ヨリ速ニ市町村長ニ届出シメ自費治療患者ニ在リテハ治療票ヲ返戻セシムヘシ

第卅二條 「トラホーム」患者他部内ニ移住シタルトキハ直チニ市町村長ヨリ移住地ノ市町村長ニ通報スヘシ

第卅三條 自費治療患者ニシテ治療シタルトキ又ハ治療ヲ要セサルニ至リタルトキハ直ニ市町村長ニ届出シメ尙ホ治療シタルモノニ付テハ更ニ市町村醫若クハ嘱托醫ノ檢診ヲ受ケシムヘシ

第卅四條 市町村長ハ第八號様式ニ依リ毎年十月ヨリ翌年三月末日迄及四月ヨリ九月末日迄ノ治療成績表ヲ調製シ各翌月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第三章 工場ニ於ケル豫防方法

第卅五條 警察署長、分署長ハ其ノ所轄内ニ於ケル職工十人以上ヲ有スル工場ニ對シ工場主ニ本則第一條、第二條ニ準シ工場醫若ハ嘱托醫ヲシテ全工場員ニ對スル「トラホーム」ヲ檢診セシメ尙ホ左記各號ニ依ルノ外本則第九條第十二條乃至第二十五條ヲ準用シテ豫防方法ヲ實行セシムヘシ

一、新ニ職工ヲ雇入ル、トキハ之ヲ檢診スルコト

二、工場ニハ第九號様式ノ患者名簿ヲ備ヘ置キ「トラホーム」及ヒ濾胞性結膜炎患者ノ氏名ヲ登錄シ其ノ異動アル毎ニ之ヲ訂正スルコト

三、工場ニ於テ前號ノ患者ヲ名簿ニ登録シ又ハ異動アリタルトキハ第十號様式ニ依リ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ルコト

四、工場員ノ「トラホーム」患者ハ工場ノ費用ヲ以テ治療スルコト

第卅六條 警察署長、分署長ハ第十一號様式ノ患者名簿ヲ調製シ工場主ヨリ前條第十號ノ届出ア

リタルトキハ之ヲ登録、加除訂正スヘシ又定期檢診及ヒ臨時全工場員ヲ檢診セシメタルトキハ第十二號様式ニ依リ届出後十日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第卅七條 警察署長、分署長ハ第十三號様式ニ依リ毎年四月ヨリ九月末日迄及十月ヨリ翌年三月

末日迄ノ治療成績表ヲ調製シ各翌月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第卅八條 警察官吏ハ時々工場ヲ巡視シテ「トラホーム」豫防撲滅ノ方法ヲ監視督勵スヘシ

附 則

第卅九條 本則ニ依リ町村長ヨリ知事ニ進達スル書類ハ所轄郡長ヲ經由スヘシ

第一號様式 (用紙美濃形)

患者名簿 (本簿ハ男女各別ニ調製スルヲ要ス)

第 學年檢査人員(男)若ハ(女) 人 學校醫 姓 名

| 病名及程度 | 續發症 | 職業 | 姓 | 名 | 年 齡 | 備 考 |
|-------|-----|----|---|---|-------|-----|
| | | | | | 生 年 月 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

名簿ノ表紙ニハ檢査年月ヲ記入シ永ク保存スルモノトス

第一欄ニハ「トラホーム」ノ重症、中等症、輕症、疑似症及ヒ濾胞性結膜炎ト記スルモノトス但シ重症トハ續發症例令「パンヌス」、角膜潰瘍、睫毛亂生症、眼險内翻症、其ノ他角膜翳ノ爲メ視

力障害ヲ惹起セルモノ等アルモノ、中等症トハ上下眼瞼、穹窿部結膜ニ顆粒、乳瞷肥大等ノ多
發セルモノ、輕症トハ顆粒乳瞷肥大ノ小キキモノヲ云フ、

第二欄ニハ左眼「パンヌス」、右眼角膜浸潤等ト記スルモノトス

第三欄ニハ父兄等保護者ノ職業例令ハ大工、呉服商等ト記スルモノトス

第六欄ニハ學校治療、自宅治療着手ノ年月、治療票ヲ交附シタル月日、手術セルトキハ其ノ事實、

治癒ノ年月、傳染ノ危險甚タレタ出席ヲ停止シタルトキハ其ノ年月日等ヲ記スルモノトス

第二號様式

(用紙美濃形)

學校「トヲホー」檢診報告表

| 病名及ヒ其他 | 學年別及ヒ計 | | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 計 |
|----------------|--------|---|---|---|---|---|---|---|
| | 何學年 | 同 | | | | | | |
| 重 症 | 男 | | | | | | | |
| 中 等 症 | 同 | | | | | | | |
| 輕 症 | 同 | | | | | | | |
| 疑 似 症 | 同 | | | | | | | |
| 濾胞性結膜炎 | 同 | | | | | | | |
| 出席ヲ停止シタ ルモノ | 同 | | | | | | | |
| 檢 査 人 員 | 同 | | | | | | | |

檢診自明治 年 月 日
至明治 年 月 日
右及報告候也

年 月 日

學校醫 姓 名

市郡 町村

何學校々長 姓 名

郡市町村長宛

第三號様式

學校「トラホーム」治療票

第 號

和歌山縣

市郡 村大字 番地

病名

姓 名

何學年

年 月 生

交附時 明治 年 月 日 何 學 校

檢診時 明治 年 月 日 學 校 醫 姓 名

治療開始時 明治 年 月 日 治 療 醫 姓 名

治癒時 明治 年 月 日 治 療 醫 姓 名 印

(表)

右及報告候也

明治 年 月 日

市郡 町村

何學校々長

姓 名

郡市町村長宛

第五號様式

次年徴兵適齡者並ニ壯丁「トヲホー」患者名簿

| 病名及ヒ程度 | 續 | 發 | 症 | 職 | 業 | 受 | 檢 | 月 | 日 | 備 | 考 | 住 | 所 | 姓 | 生 | 年 | 月 | 名 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第一欄ニハ重症、中等症、輕症、疑似症ト記ス

第二欄ニハ左眼角膜潰瘍、右眼瞼内翻症ト記ス

第三欄ニハ本人若クハ戸主ノ職業ヲ記ス

第四欄ニハ受檢月日ヲ記ス

第五欄ニハ公費ナルヤ自費ナルヤ又治癒シタルトキ或ハ他所ニ轉住シタルトキハ其ノ年月ヲ記

ス其ノ他名簿ノ適宜ノ箇所ニ檢診醫ノ姓名ヲ記スヘシ

第六號樣式

「トラホーム」次年徵兵適齡者檢診報告表

| 検査人員 | 重 | 症 | 中 | 等 | 症 | 輕 | 症 | 疑 | 似 | 症 | 不検査人員 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------|
| | | | | | | | | | | | |

右及報告候也

明治 年 月 日

檢診醫

姓 名

宛

何市町村長

名

備考 徵兵合格者ノ檢診ニ對シテハ本表題ヲ徵兵合格者第一次、第二次ト記入スヘシ
第七號樣式

次年徵兵適齡者並ニ壯丁「トラホーム」治療票

和歌山縣

郡

村大字

番地

病名

姓

名

年月生

交附時

明治 年 月 日

何市町村役場

(表)

| | | |
|-------|----------|--------|
| 檢診時 | 明治 年 月 日 | 檢診醫姓名 |
| 治療開始時 | 明治 年 月 日 | 治療醫姓名 |
| 治療時 | 明治 年 月 日 | 治療醫姓名印 |

注意

一此治療票ヲ交附シレタルモノハ直チニ醫療ヲ受ケ全治ニ至ル迄繼續スルコト
 一此治療票ヲ受ケタルトキハ其ノ都度裏面ノ月日欄ニ治療醫ノ捺印ヲ受ケタルコト
 一此治療票ハ警察官吏、市町村吏員ノ檢閲ヲ受ケ檢閲者ノ檢印ヲ受ケタルコト

| 日 | 月一 | 月二 | 月三 |
|----|----|----|----|
| 一 | | | |
| 二 | | | |
| 三 | | | |
| 四 | | | |
| 五 | | | |
| 六 | | | |
| 七 | | | |
| 八 | | | |
| 九 | | | |
| 十 | | | |
| 十一 | | | |
| 十二 | | | |
| 十三 | | | |
| 十四 | | | |
| 十五 | | | |
| 十六 | | | |
| 十七 | | | |
| 十八 | | | |
| 十九 | | | |
| 二十 | | | |
| 廿一 | | | |
| 廿二 | | | |
| 廿三 | | | |
| 廿四 | | | |
| 廿五 | | | |
| 廿六 | | | |
| 廿七 | | | |
| 廿八 | | | |
| 廿九 | | | |
| 三十 | | | |
| 卅一 | | | |

| 病 症 | 人員別 | | | 人 員 | 理 由 |
|-------------|------------------|--------------------------|-----------------------|------------------|--------|
| | 受 療 人 員 | 治 癒 人 員 | 不 受 療 人 員 | | |
| 重 症 | 自公 | | | 不 受 療 者 | |
| 中 等 症 | 自公 | | | | |
| 輕 症 | 自公 | | | | |
| 疑 似 症 | 自公 | | | | |
| | | | | 人 員 | |
| | 人 | 轉住、所在不明其ノ他事由ニ依リ治療ヲ受ケサルモノ | | | |
| | 人 | 事由ナク醫療ヲ受ケサルモノ | | | |

但シ受療人員トハ現ニ治療シツ、アル者ヲ云フ
右及報告候也

年月日

宛

何市町村長名

第九號様式

「トラホーム」患者名簿

何々工場

| 病名及ヒ程度 | 發見、治癒、解雇 死亡ノ年月日 | 性別 | 族 | 籍 | 姓 | 名 | 生年月 | 檢診醫姓名 |
|--------|--------------------|----|---|---|---|---|-----|-------|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

第十號様式

「トラホーム」患者届書

總檢診人員

| 病名及ヒ程度 | 發見、治癒、解雇 死亡ノ年月日 | 性別 | 族 | 籍 | 姓 | 名 | 生年月 | 檢診醫姓名 |
|--------|--------------------|----|---|---|---|---|-----|-------|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

但シ總檢診人員ハ定期檢診及ヒ臨時全工場員ヲ檢診シタルトキ記入スルモノトス
右及御届候也

年月日

和歌山縣

郡 市 町 大字

番地

工業名

何々業工場主

姓名

市町村長宛

第十一號様式

工場「トラホーム」患者名簿

警察署分署名

病名及ヒ程度

備考

性別

族

籍

姓

名

生

年

月

檢診

醫

姓名

ヒ

工業ノ種類及

工場名

備考欄ニハ檢診、治癒、解雇ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第十二號様式

工場「トラホーム」檢診報告表

何郡市町村

工業ノ種類
檢診醫

姓

工

場名

病名其ノ他

重

症

中

等

症

輕

症

疑

似

症

濾胞性結膜炎

檢

査

人員

| 宛 | 治療方法 ノ概要 | 計 | 疑似症 | | 輕症 | | 中等症 | | 重症 | |
|---|-------------|---|-----|---|----|---|-----|---|----|---|
| | | | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

右及報告候也

年月日

警察署長分署長

○告示

○和歌山縣告示第三百二十五號

左記定置漁業免許期間ノ更新ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録ス

明治四十三年九月十八日

和歌山縣知事 川上親晴

明治四十一年十一月六日免許第七五九號

一 魴築類漁業 鮎鞘掛

申請者

那賀郡岩出町大字清水

代表者 中谷久松

更新期間 明治四十三年十一月六日ヨリ五箇年

○和歌山縣告示第三百二十六號

土地收用法第九條ニ依リ鐵道敷設準備ノ爲左ノ土地ニ立入り測量ヲ爲スコトヲ高野登山鐵道株式會社ニ許可セリ

明治四十三年九月十八日

和歌山縣知事 川上親晴

和歌山縣伊都郡紀見村、橋本町、山田村、應其村、高野口町

○告 諭

○告諭第二號

「トラホーム」は悪性の傳染性眼疾にして、一度侵さるときは、容易に治癒せず。放任すれば、遂

に失明の不幸を見るに至る。殊に本病は、一時的流行の疾患と異り。多くは慢性にして、病毒常に患者の結膜内に潜在し。不知不識の間に、健眼者を侵襲するものなるを以て。其の危害の恐る可き割合に、各自の注意を惹くこと少く。伝病毒を傳播蔓延せしむるものなり。我が國の如きは、累年其の慘禍を蒙むること甚だしく。教育上、軍事上及び生産上、容易ならざる障礙を來すの虞あり。今に於て此兇惡なる疾病の豫防撲滅策を講せずば其の慘害の波及する所、測り知るべからざるものあり。依て左に其の病狀及び豫防法を指示す。各自夫れ其の趣旨を遵守し之が豫防に努むべし。

病 狀

「トラホーム」には急性と慢性とありて。急性のものは、眼瞼腫脹、眼球結膜發赤し。眼内に砂塵の入りたる如き感を起し。羞明、流涙、癢痒、灼熱あり。初めは稀薄の分泌物出で、後には膿様となる。眼瞼を翻轉せば、結膜發赤して凹凸となり、灰白色或は帶黃白色粟粒の顆粒を生じ。甚だしきものは、覆盆子の實の様となる。此時充分治療せざる爲め、慢性となることあれども。多くは初めより緩慢に來りて、自己の「トラホーム」に罹れることを知らず。漸次病勢の進むにつれて、眼内に砂塵の入りたる感を發し。或は頻回瞬目をなし。或は作業の際に眼の疲勞を起し易く。或は眼脂の少し分泌する位にして久しく経過し。學校生徒、兒童、壯丁の体格検査等に當り、醫師より初めて發見されることあり。此際眼瞼を翻轉せば、赤き裏に灰白色或は帶黃白色顆粒を生せるを見る。斯の如くに自身に感ずる症候は僅微なるも、病勢は其の間に漸次に進行して、眼瞼結膜は癢

痕^{ツリ}となり、其の結果萎縮して瞼眼縁^{まぶたのふち}を内方に向け睫毛^{まつげ}倒生^{まつげ}を出し、角膜^{くわんま}に浸潤^{ひし}を生じ。是が多數に集合して「パンメス」と云ふ血管^{きやくわん}を伴ふ浸潤^{ひそり}となり。或は角膜潰瘍^{はしくづか}となり、終生消失せざる翳^{くもり}を生じ。其の他種々の續發症^{よめいせう}を喚起^{めが}し。甚だしきは角膜を破壊して盲目となる。斯く失明する迄には、病勢の消長ありて、非常に長年月を要し。其の間甚だしき苦痛を蒙り。治療を受くるも、初期ならば痕跡^{あとざ}なく全治すも雖も、多くは種々の危害を遺殘するものなり

尙ほ「トラホーム」は、或る一種の病原^{やまのしな}体により、發起するものにして。患者の眼脂の内に、其の病毒^{びく}を含有せるを以て。眼脂或は眼脂の附着せるもの、例せば手指、手拭、洗面器等より傳染するものなり。是れ人々の常に豫防上忘却すべからざるところなり。

豫防法

健眼者心得

- 一、塵埃、煤煙は眼を刺戟し「トラホーム」の誘因となるを以て室内の掃除を能くし。時々新鮮なる空氣を流通せしめ。光線の射入を良くすること。
- 二、手拭、手布は傳染の媒介をなすものなるを以て。各別に使用し共用せざること。
- 三、洗面の際は先づ手指を能く清洗し後ら洗顔し。洗面器は傳染の虞あるを以て可成各自別々に所持し。湯屋の手盥の如きは殊に危険なるを以て自用のものを持ち行くを良しとす。已を得ず共用洗面器を使用するときは石鹼及び熱湯を以て能く洗淨すること。
- 四、入浴の時は浴槽外にて手指並に顔面を清潔なる湯或は水を以て洗淨し浴槽中にて洗顔せざる

220

- 五、健眼者は可成眼病者の所持品に接觸せざること。
- 六、乳母、子守、奴婢等を傭ひ入るゝ際には醫師の診察を受けしめ健眼者を選択すること。
- 七、小兒の集合遊戯をなすときは傳染の虞あるを以て保護者たる父兄等は眼病ある小兒と共に遊戯せしめざる様注意すること。
- 八、身体殊に顔面手指を清潔にし爪は屢々剪除し手を眼邊に觸るゝ時は豫め手指を洗淨すること。
- 九、神社佛閣に安置せる「ピンズル」と稱する木像等を撫でたる手は直に眼邊に觸れざること。
- 十、眼に異狀ある者は速に醫師の診察を受け殊に「トラホーム」患者ある家族は最も注意すること。

患者 心得

- 一、「トラホーム」は時を経るに従ひ治癒困難なるを以て可成初期に治療すること必要なり。殊に本病は經過緩慢にして治療に倦み易きを以て。忍耐持久充分治療をなし其の根治を期すること。
- 二、患者は公德を重んじ家族は勿論他人に傳染せしめざる様心掛くること。
- 三、患者の手拭、洗面器、寢具、玩具等の類は嚴に健眼者と區別し。混置、混用せず寢具は時々日光に曝晒すること。
- 四、患者の眼拭は清潔なる「ガーゼ」を使用するを良しとす。俗間に往々使ひらるゝ絨絹は汚目不明にして眼脂涙液を吸収せず其の赤色も眼を刺戟するを以て使用せざる様に注意し。眼拭は時々焼棄するか或は熱湯に浸漬したる後能く洗濯して日光に曝晒し乾燥すること。
- 五、患者は夜更かきを慎み睡眠を適當にし作業は光線の充分なる所にてなすこと。
- 六、塵埃、激光、強風は眼を刺戟し病勢を増進するを以て室内の掃除を長くし外出の時は保護眼鏡

を装用すること。

七、迷信により神社佛閣に供へたる御水と稱する性質不明なるものを點眼し或は尿を以て洗眼し或は眼臉縁の膠着せるときは舌を以て舐るが如きは嚴に之れを戒むること。

○ 辞 令

○明治四十三年九月七日

願ニ依リ和歌山縣立田邊中學校教授囑託ヲ解ク

○明治四十三年九月十四日

和歌山縣有田郡箕嶋町立實業學校助教諭心得ヲ命ス

月俸拾六圓ヲ給ス

願ニ依リ職務ヲ免ス

○明治四十三年九月十六日

給月俸貳拾七圓

給八級俸

給月俸貳拾貳圓

給十級俸

給十級俸

給月俸拾四圓

給月俸拾四圓

休職土木工手

川口健次郎

井上信一

古川芳松

伊都郡書記

中谷清

伊都郡書記

田中孝太郎

伊都郡書記

清水龜藏

伊都郡書記

小島常一郎

伊都郡書記

北川圭三

伊都郡書記

大畑肅

伊都郡書記

木村彌三郎

給月俸拾四圓

給月俸拾參圓

給月俸拾貳圓

伊都郡書記

伊都郡書記

伊都郡書記

戸ノ本 彌一郎

森川 勝三郎

寺本 福一郎

○町村吏員ノ異動

○明治四十三年九月十五日認可

那賀郡池田村助役

長尾藤之進

○彙報

○叙位 粉河中學校教諭大上茂喬ハ本月十日正八位ニ叙セラレタリ

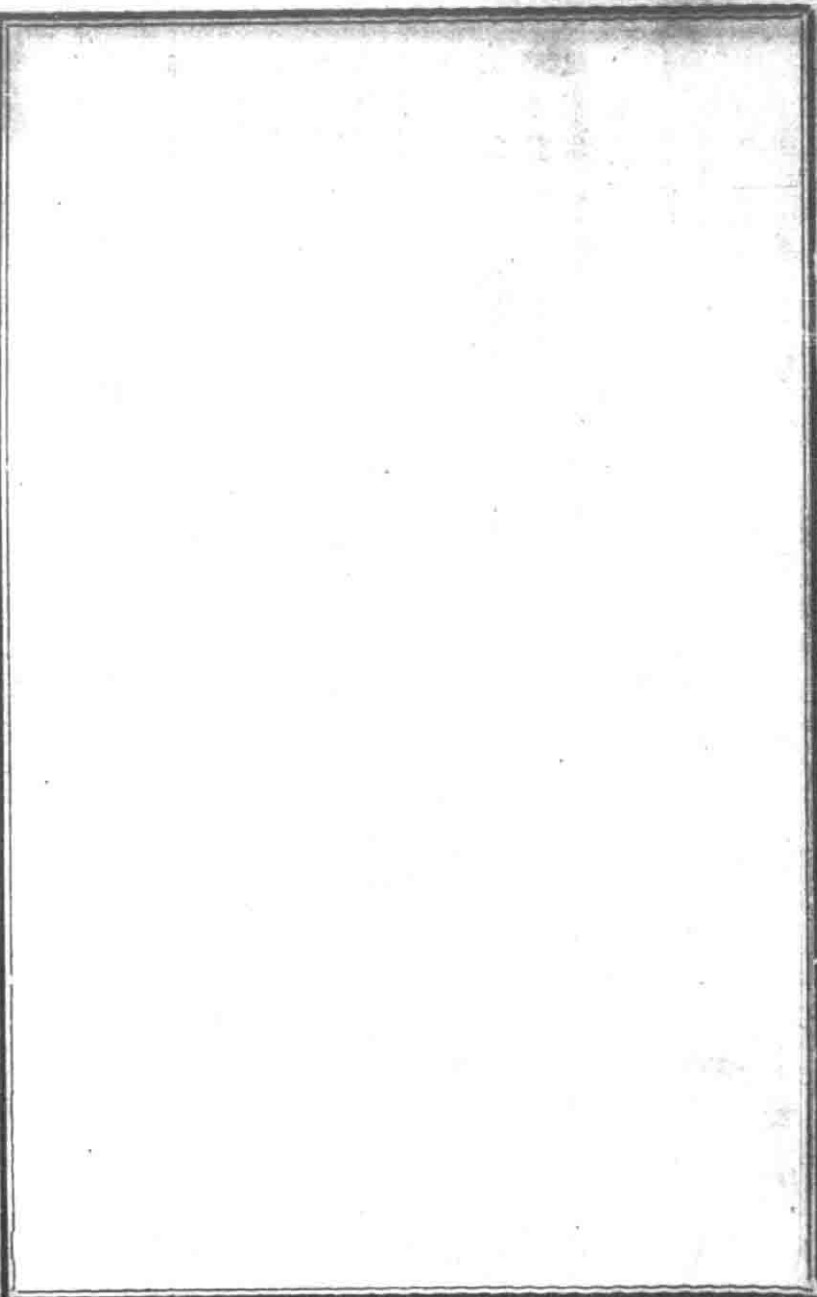
○轉任 粉河中學校教諭落合保ハ本月十日大阪府立岸和田中學校教諭ニ伊都郡視學土屋章ハ本月十日京都府船井郡吉富尋常高等小學校訓導兼校長ニ執レモ轉任セリ

○ 觀 象

自九月十三日至九月十五日氣象

(和歌山測候所觀測)

| 種 目 | 九 月 十 三 日 | | 九 月 十 四 日 | | 九 月 十 五 日 | |
|------|-----------|-------|-----------|----------|-----------|-------|
| | 前 年 | 本 年 | 前 年 | 本 年 | 前 年 | 本 年 |
| 平均氣壓 | 七五七耗〇 | 七五六耗五 | 七六一耗九 | 七五六耗六 | 七六三耗七 | 七五八耗六 |
| 平均氣溫 | 二二度八 | 一九度〇 | 二五度三 | 一九度〇 | 二五度四 | 一九度一 |
| 最高氣溫 | 二四度七 | 二〇度六 | 三〇度八 | 二一度〇 | 三一度〇 | 二二度五 |
| 最低氣溫 | 二一度一 | 一七度〇 | 二二度五 | 一七度四 | 二二度二 | 一六度七 |
| 最多風向 | 北東 | 北東 | 北 | 北東 | 南西 | 北東 |
| 平均風力 | 二米二 | 二米六 | 一米二 | 一米八 | 一米五 | 二米三 |
| 天氣 | 曇微雨 | 雨 | 半晴 | 曇微雨 | 晴驟雨 | 曇 |
| 降水量 | 〇耗〇 | 二〇耗一 | 全部ノ警戒ヲ解除ス | 四耗九 | 三耗五 | 一耗八 |
| 記事現象 | 時々微雨 | 終日降雨 | 午前十一時半縣下 | 朝間并ニ夕刻降雨 | 午後驟雨夜間西北 | 曉間降雨 |



明治四十三年九月十七日印刷
明治四十三年九月十八日發行
(舊曆三月六日九月十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日發行)

和歌山縣知事官房

印刷所 和歌山市北休賀町六番地
電話 版部